

第一回各組青少幼年教化担当者研修会報告書

〈はじめに〉

去る2022年5月12日(木)第一回各組青少幼年教化担当者研修会が開催されました。部門委員・教務所職員も含めて30名の参加者があり、座談会を通して青少幼年教化の現状と課題を共有しました。その際に挙げられた意見を集約しましたので、共有させていただきます。また、それらの意見を踏まえて「青少幼年部門からの提案」も掲載しておりますので、ご参考までにご一読ください。

【期日】2022年5月12日(木)13:30~17:00

【会場】教区同朋会館(姫路)

【日程】

時 間	日 程 内 容
13:30 ~ 13:45	【開 会】真宗宗歌・挨拶
13:45 ~ 14:45	班別座談Ⅰテーマ：各寺院での青少幼年教化への取り組みや悩み
移動・休憩(5分)	
14:50 ~ 15:20	全体報告
移動・休憩(5分)	
15:25 ~ 16:20	班別座談Ⅱテーマ：これからどのようなことが思い描けるか?
移動・休憩(5分)	
16:25 ~ 16:55	全体報告
16:55 ~ 17:00	【閉 会】恩徳讃・挨拶

【参加者】

青少幼年部門委員

第3組	長圓寺	湯朝 良尚	赤穂組	光明寺	青山 祐一
第4組	西蓮寺	山科 立人	備後組	光圓寺	河野 大介
第4組	興宗寺	木村 慎	安芸南組	極樂寺	惣持 留理
第6組	東光寺	廣瀬 恵美			

教務所

教化委員長	棚野 大輔
教区駐在教導	寺本 智真
書記	藤原 了基

各組青少幼年担当者

NO.	組	寺院名	氏名	
1	神戸組	大圓寺	村上 英樹	
2	神戸組	福泉寺	北野 ひろみ	
3	第1組	乘願寺	矢木 卓二	
4	第2組	法性寺	松岡 彰	
5	第2組	圓光寺	多田 顕	
6	第3組	圓證寺	近藤 祐悟	
7	第3組	西教寺	藤谷 真	
8	第4組	善照寺	須貝 暁子	
9	第4組	願成寺	北風 智史	
10	第5組	正蓮寺	高谷 俊英	
11	第5組	善覺寺	藤郷 法充	欠
12	第6組	淨徳寺	海津 隆明	欠
13	第6組	東光寺	廣瀬 立慶	

NO.	組	寺院名	氏名	
14	第7組	西勝寺	後藤 園子	欠
15	第7組	光圓寺	後藤 海	
16	赤穂組	萬福寺	源 誓了	
17	赤穂組	明顯寺	内藤 和裕	
18	美作組	教福寺	齊藤 鉄也	
19	美作組	教本寺	楳葉 教導	
20	備中組	光明坊	勝間 海	
21	備後組	寶泉寺	三次 正信	欠
22	備後組	最善寺	廣住 祐樹	
23	芸備組	徳榮寺	三上 誓範	欠
24	安芸北組	妙蓮寺	水野 元	
25	安芸南組	正専寺	加藤 隆徳	欠
26	安芸南組	淨福寺	安藤 智宣	

【開催趣旨】

私たち青少幼年部門は各地で青少幼年教化を担う皆さまへ「青少幼年教化という同じ志を持つ仲間との出遇いの場」をご用意させていただき、そのうえで「皆さまのアイデア作成や実行するためのサポートをしたい」と考えました。

各地域や各寺院における事情はさまざまであり、教化事業もそれぞれの地域や状況に合ったものが求められます。そのため、私たち部門から何かひとつ事業を提案することではなく、その地域に生きる皆さまが主体となって取り組み、事業を展開していただきたいと考えました。

「何かしたいけどやり方がわからない」「道具やノウハウがない」「思うように上手くいかない」「うちではこんなことをやっている」「やってみたいことがある」など、皆さまそれぞれの思いや悩みや実績を共有することにより、新しいアイデアやヒントが生まれ、地域や世代を超えた助け合いとなるのではないのでしょうか。

そのようなことが期待できる場を設け、整備していきたいと考えています。この場での皆さまの出遇いが、ノウハウや道具の貸し借り・地域を超え協力しあつての問題解決・事業の開催など、カタチになっていくことを願うとともにそのお手伝いをさせていただきたいと思えます。

【内容】

● 寺院・組での子ども会の立ち上げや継続に関する意見

・ 参加対象について

【悩み・問題点】

お寺の周りに対象となる子どもがいない。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 地域の子ども会すらなくなってしまった。子どもが周りにいない。
- ◇ 子ども達がいろいろ参加してくれるのはせいぜい小学生まで。中学生以上の参加はほとんどない。
- ◇ お寺自体が地域に根差したものでない。（ご門徒宅が近くにない）
- ◇ 花まつりの案内をどこに出せばよいか。新しい案内先には浸透するまで時間がかかる。

【案・ヒント】

対象を門徒に限らない、送迎を考える、長期休暇を活用した開催等の工夫が考えられる。また、参加人数に囚われないことも大事。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 門徒ではなく、自分の子どもの友人たちと寺子屋を実施。組でお楽しみ会を実施。
- ◇ 「ご門徒さんの子ども」に限定せず、「どなたでも」と呼びかけると集まる人数は増える。
- ◇ 近隣の幼稚園の行事でお寺に来る。きっかけにできないか。
- ◇ マイクロバスの免許を取ったので行事の送迎を含めて色々してみたいと思っている。
- ◇ 過疎地であろうが人口密集地であろうが、法務に伺うお宅は子どもの長期休暇の帰省先となっている。
- ◇ 「ひとりから始める」という言葉に後押しされた。「ひとり」とは子どもでもあるし、私自身でもあると思う。

・ 運営について

【悩み・問題点】

一人では大変。スタッフを頼むのも難しい。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 毎週土曜日、宿題ができるようにお寺を開放している。しかし、毎週ともなると見守るスタッフの確保の難しさと、寺院の者が常に参加することが不可能

という問題が出てきて、持続することができなくなりました。

- ◇ 少ない活動がコロナで途切れたので、再開がなかなか難しい。
- ◇ スタッフ不足、内容の偏り、子どもの参加が少ないということが問題となっている。
- ◇ 昔は青少幼年教化の活動をしていたが、今はしんどくなってやらなくなった。自分自身に子どもがいらないからどう接していいか悩む。

【案・ヒント】

寺族やご門徒、地域の方に手伝ってもらおう。複数カ寺で開催する。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 今は自分自身のやる気が低い。やる気があった時に他の人に相談をしたらよかった。
- ◇ 寺院の者だけでしてしまおうとせず、ご門徒さんや地域の方にボランティアを募るのも良いのではないか。
- ◇ 何かカ寺か集まってやってみると始めやすいかも。
- ◇ 住職を交代してからのの方が色々やりやすかったので、変わる前はアイデアをあたためておくのがいいかも。
- ◇ 近所の真言宗のお寺さんとも一緒に何かしたい。

・ 内容について

【悩み・問題点】

何をしたらいいかわからない。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 「お寺の行事に参加する」ということになかなか結びつかない。
- ◇ 子どもとどう接すればいいかわからない。
- ◇ 寺でのことを勝手にやっていいならいいけど、新しいことをやるには色々誰かに聞いて決めないといけない。
- ◇ 一回始めたら続けないといけないので大変。

【案・ヒント】

難しく考えすぎず、やりたいことをやってみる。相談できる人、本山や教区の支援を頼る。

参加者の声（抜粋）

- ◇ ラジオ体操の後の正信偈は昔からあったのを続けている。宗派関係なく読ませている。
- ◇ 教化を最終目標に、まずは人に集まってもらう。除夜の鐘のあと DJ イベント、本堂で怪談の朗読イベントなど色々な場に使って近い場所に感じてほしい。
- ◇ 「お寺の舞台裏体験」ならぬ、お仏飯作り体験やミニチュア仏華を活けてみたり、お寺に興味をもってもらおう。

- ◇ まずは軽く宿題をできる環境を作るのが必要。
- ◇ 全員宗派関係なくお寺の掃除をさせている。
- ◇ 今まで続いていたことを続けるのは大切。
- ◇ 焚き火などもやってみたい。
- ◇ 「私がやりたいこと」をする。開催者本人が楽しめる内容にする。
- ◇ 一回きりの開催でもいい。続けなくてもいい。人を集めなくてもいい。もしこれらの集まりに興味を持ってもらえれば「あの会またやって」と声をかけてもらえるかもしれない。
- ◇ 何を始めたとしても失敗や不正解ではなく、きっと最後には何かを得られる縁づくりになるはずだと思う。
- ◇ 本山の寺院活性化支援に応募した。

〈部門からの提案〉

子ども会等の立ち上げや継続に関して、各寺院がそれぞれに多くの問題に直面していることが窺い知れました。一方で、困難を乗り越えるための様々なアイデアも提案いただきました。

難しく考えすぎず、一回限りになってもいいので出来る形を探ってみてはどうでしょうか。提案されたアイデアを参考にして、可能性が開けてくるかもしれません。

複数カ寺での開催など、協力できる体制を作ることによって解消できる問題もありそうです。

また、会作りにこだわらない青少幼年教化に目を向けることも考えたいと思います。(次項「日常の法務での青少幼年教化」参照)

● 日常の法務での青少年教化について

【悩み・問題点】

法事場に子どもが遠ざけられてしまっている。いたとしても、どう接してよいか分からない。

参加者の声（抜粋）

- ◇ お参りで出会う子どもに対して自分で壁を作ってしまう。もっと気軽に話していけばいいのではないか。
- ◇ 法事するとき等、子どもの姿が少ない。参加している子どもがいても、「お寺では静かにしなくては。させなくては。」と、子どもに注意している場面をよく見る。
- ◇ 法事の時の法話について、老人と子ども、どちらに向けて話をしたらいいか悩む。
- ◇ 法務で子どもに声を掛けることもあるが、届いているか不安。もっと違った関わり方ができるのではないか。
- ◇ 法事の時に親が子どもを遠ざけてしまうことがある。法事やお寺は厳粛なもので子どもが迷惑をかけてはいけないというイメージを持たれている方が多いと感じる。

【案・ヒント】

絵本、紙芝居、風船など、教化教材を活用する。まず、親や祖父母世代に「子どもにもいてほしい場所である」ことを伝える。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 本山から出されている「ほとけの子風船」を手渡すだけでもよろこんでもらえる。
- ◇ 無理に何かを伝えるのではなく、ただ話を聞くことが大事。
- ◇ 子どもたち本人に声をかけるのではなく、親やさらに上の世代に声をかける。

〈部門からの提案〉

法務の場において、青少年との関わりを持つことを考えながらも、様々に実現できない状況があるのだらうと思います。子どもや若者本人にも、その上の世代の方にも、まずは、考えすぎず気軽に声を掛けてみるというのでもいいのかもしれない。そこからいろいろお話をしていくことができるのではないのでしょうか。

本山から出されている教化教材にも活用できるものがたくさんあります。

目の前にいる子どもや若者はこちらが思う以上に真剣に受け止めてくれます。

〈参考〉



東本願寺出版ホームページ

東本願寺出版

検索

<https://higashihonganji-shuppan.jp/>

絵本や紙芝居、ほとけの子風船やキャラクターグッズなど、活用できる教化教材が購入できます。



● 青少幼年教化について

【悩み・問題点】

青少幼年教化としてどういうことが願われているのかわからない。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 子ども会をやるにも大人のエゴになってしまう可能性。
- ◇ 子どもにお寺に来てもらう子ども会という形を目指すこと自体がどうなのかと思う。
- ◇ 法務や仕事が忙しく子ども会などの青少幼年教化に手が回らない。
- ◇ 現在、若年層の感情表現に自殺、暴力などが多い。いま、仏教に何ができるのだろうか。何をもちて青少幼年教化というのだろうか。
- ◇ 「しないといけないこと」から「やりたいこと」にならないと。
- ◇ やることによる自分へのメリットがないとなかなかできない。

【案・ヒント】

子どもに対して何かをしていくということではなく、同じく「道を求めるもの」として子どもたちと出あっていくことが始まりではないか。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 子どもを教化しないといけないという思いが間違っている。
- ◇ 青少幼年教化と言えば、子どもをターゲットにしてしまいがちだが、全ての世代の教化が最終的には青少幼年教化に繋がっていくはずだと思う。
- ◇ 子どもと一緒にいるだけでお互い学びになる。
- ◇ 参加してくれない子どもにばかり目が向き、目の前にいる子を見れていなかった。
- ◇ 昔は、お寺がカウンセリング的な場所であった。今もそうあってほしい。悩みを聞いたときには、答えを出さなくても聞いてあげるだけでも良いと思う。
- ◇ 大人が子どもたちをどうこうするのではなく、子どもの社会と大人の社会に多くある共通の部分に耳を傾けていくこと、共感し信頼関係を築くことが必要。お寺というところがそういう場所であることを子ども達に知ってもらうためにも、地域や学校ご門徒さんなど、大人達との関係を回復することが大切。（子どもたちの方だけを向いてはいけない）
- ◇ 青少幼年教化が各寺で始まっていくのか、住職や寺族のやる気次第ではないか？
- ◇ 目の前には悩みを抱えて生きる青少幼年がいる。「寄り添う」ことが必要ではないか。
- ◇ 自分自身でしたいことは「こども食堂」。家でちゃんと食べれない子どもの貧困が今問題なので、1人の人間としてその子たちと過ごしたい。
- ◇ 親が精神的余裕を取り戻す場所としても開かれるべき。親の余裕ができれば子にも優しくなれる。親の不満、余裕のなさに寄り添っていく。

〈部門からの提案〉

青少幼年教化指針には、「青少幼年と共に悩み、共に生きる」ということが示されています。青少幼年に何かを教えるということではなく、一人の求道者として出あうことを大事にしたいと思います。

〈参考〉

真宗大谷派

青少幼年センター



真宗大谷派青少幼年センターホームページ

青少幼年センター

検索

<https://jodo-shinshu.info/oyc/>

子ども会や若者教化など、青少幼年教化に役立つ情報がいろいろ掲載されています。

リーフレットなど、無償の教化教材もあります。



● お寺の在り方について

【悩み・問題点】

お寺の敷居が高く感じられていることが一番の問題である。

参加者の声（抜粋）

- ◇ お寺の敷居が高くなっている。
- ◇ 「お寺」＝「死」というイメージが強く、近づきにくく、入ってはいけない場所だと認識されてしまっているように思う。これは、子どもだけに限らず、大人たちにも言える。
- ◇ そもそも親が仏教と出会う重要性を感じていない。お寺側も感じていなかったりする。
- ◇ 村の景色のように becoming お寺をどうにかしたい。
- ◇ お寺が一軒家のような現代的な造りでお寺だと分かりにくく入りづらくなっているのかもしれない。
- ◇ お寺の造りがしっかりしたもので、敷居が高く感じられてしまっているのかもしれない。

【案・ヒント】

誰でも気兼ねなく入ってこれる開かれたお寺にしたい。地域・社会のなかで、お寺に求められている役割はある。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 自分がまず仏法に出遇うのが大切だ。
- ◇ ふらっと入れる寺かどうか。親が来やすい場所にならないと子どもはこない。
- ◇ 地域のつながりが薄れてきているが、それは反面、寺の果たすべき役割が増大していることでもある。
- ◇ お寺でお茶を飲みにだけでも来れるような開けたものにしたい。
- ◇ お寺が子どもの遊び場になればいいと思う。
- ◇ 子どもが居れないお寺は大人やお年寄りも居れないのではないか。
- ◇ 開かれたお寺にしたい、お寺がどうあるべきか考えていきたい。
- ◇ あまりにも寺からの一方通行。青少年のニーズを取り入れられていない。
- ◇ 何かを始めやすい環境や雰囲気や雰囲気や住職に作ってもらいたい。
- ◇ 「お寺の舞台裏体験」ならぬ、お仏飯作り体験やミニチュア仏華を活けてみたり、お寺に興味をもってもらおう。
- ◇ 地域によって異なりがあるが各寺の利点を見出していくことが必要ではないか。

〈部門からの提案〉

「敷居の高さ」ということが取り組むべき大きな問題であることが共有されました。各お寺の利点に目を向け、地域や社会の求めに耳を傾けてみませんか？そこからできることを探してみてもはどうでしょう。

〈参考〉



しんらん交流館ホームページ

<https://jodo-shinshu.info/>

しんらん交流館

検索

教区やお寺の活動事例集、動画での法話、寺報作成など、「お寺サポート情報」が掲載されています。

● 本山や教区への要望について

寺院同士がつながり合える場が必要。企画案・金銭的支援など、取り組みの負担を減らすための方途を求める。

参加者の声（抜粋）

- ◇ 悩みもアイデアも共有できるような寺院同士の横の繋がりを強くする。
- ◇ 枠組みを教区で組んでくれると助かる。
- ◇ 一步踏み出すサポートがあれば嬉しい。
- ◇ 一部のできるところがしているという現状がもどかしい。負担なくできるような案を出してほしい。
- ◇ 本山や教区の支援事業をもっと活用できるのでは。

〈部門からの提案〉

教区としても、寺院・組における取り組みの支援を検討していきます。また、本山や組、児連などの外郭団体に求める支援もあると思います。

※金銭的支援に関して

実際に要望される声も聞かれましたが、現在、教区としては残念ながら金銭面での支援の体制を構築できていません。担当者のつながりのなかで、予算確保の仕方を共有したり、道具の貸し借りをするなどして解決の方途を探る可能性を提供することしかできません。

これまで、「金銭的支援が必要である」「お金さえあれば取り組みを始められる」という声もありました。私たちは、より良く「教化」を支え合える形を、共に考えていけることを望んでいます。是非、皆さまの率直な声を聞かせていただきたく思います。

〈おわりに〉

この度の研修会は、参加者がそれぞれの思いや悩みをお互いに伝え合うことで、現場で青少幼年教化を担うものとして出あい、つながりを築ききっかけになったと思います。

今後も継続して、出あいの場を開くとともに、この度提起された課題や要望に応えられる事業を検討していきます。ご意見や新たな要望があればお伝えください。